



いつも元気いっぱいの数学科 S先生は、お友達と本屋さんに行き、お互いの好きな本を贈り合うそうです。先日、S先生はお友達に『いちばん美しい季節に行きたい日本の絶景 365日』(291イ)を、お友達はS先生に『ハリネズミの願い』トーン・テヘレン(949テ)と、『島はぼくらと』辻村美月(913ツ)を贈りました。自分の好きな世界を知ってもらえて、お友達にも新しい世界が広がったらとても素敵です。皆さんも図書館に来て、お友達と本をおすすめし合ってみてはいかがでしょうか。

司書

## 中島 敦 展

2年生の「現代文B」で取り組む『山月記』の作者、**中島敦のパネル展**を、**7月15日まで**開催しています。県立神奈川近代文学館のご協力により、33歳でこの世を去った中島敦の生涯とその作品を27枚のパネルで紹介します。また中島敦が横浜で暮らした時代をまとめた約7分間のフォトムービー「中島敦 横浜の日々」、パラオの南洋庁へ国語教科書編纂者として赴任した日々をまとめた約10分間のフォトムービー「中島敦の南洋群島」をご覧ください。このパネル展の内容は、神奈川近代文学館にて2019年秋に開催された「中島敦展—魅せられた旅人の短い人生」のダイジェスト版です。人気漫画「文豪ストレイドッグス」でファンになった方も多い中島敦の世界を、Y校に居ながらにして観られるこの機会に、どうぞご堪能ください。



## 読書感想文コンクール

今年の夏は**読書感想文に挑戦**してみませんか。好きな本を選んで、**1800字から2000字以内**で書いてください。校内の締め切りは**9月30日**です。詳細は国語科の先生方が司書までどうぞ。どんな本を選んだらよいか悩んでしまう方には課題図書をおすすめします。

### <第67回 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書>

#### ○寺地はるな『水を縫う』913テ

手芸好きな男子高校生、清澄が姉のウェディングドレスを作ることになって……。家族の思いがタイトルにつながって静かな感動を呼びます。登場人物それぞれの気持ちにより添ってみたら、読書感想文のペンがサラサラと進みそうです。

#### ○ジョン・ポイン『兄の名は、ジェシカ』933ポ

サムの4歳年上の兄はおだやかでやさしくて学校でも人気者。そんな兄がある日、自分はトランスジェンダーだと家族に告白して……。揺れ動くサムの気持ちをぜひ読書感想文で表現してみてください。

#### ○佐藤勝彦『科学者になりたい君へ』407サ

どうすれば科学者になれるのかを、「インフレーション理論」を提唱した著者が自身の科学者人生を紹介しつつ、「科学とはどういうものか」「優れた科学者になるには何をしたらよいのか」などを語っています。



読書感想文は、  
課題図書選びから  
始まっている。



図書カードプレゼントキャンペーンを公式サイトで実施中！

第67回 青少年読書感想文全国コンクール

## 映像で知る 新型コロナウイルス

体内の細胞を擬人化した人気漫画「はたらく細胞」(726 シ)の新型コロナウイルスに関する2編のアニメ版が、動画配信サイト YouTube で来年3月末まで無料公開されています。ウイルスと免疫細胞らとの攻防を描いた約14分間の「新型コロナウイルス編」と、細胞たちの視点から手洗いや三密回避の重要性を訴える約6分間の「感染予防編」を観ることで、楽しく学びながら正しい情報に触れます。また、国際協力機構(JICA)の支援により、まもなく英語やヒンディー語へも翻訳されるようです。



はたらく細胞「新型コロナウイルス・感染予防編」  
<https://youtu.be/z-d8Nxbpbms>



はたらく細胞「新型コロナウイルス編」  
<https://youtu.be/0WZJ32NqWUA>

## 本で知る 新型コロナウイルス

新型コロナウイルスに関する書籍は次から次へと出版されています。昨年度のAO入試や指定校推薦などで入学が決まった生徒への課題レポートなどにも、新型コロナウイルスをテーマとした本が多く使われており、今年度はさらに一般入試の問題文にも出題されることが予想されます。今のうちから新型コロナウイルスに関する広く深い知識を身につけませんか。

### ○ジャレド・ダイヤモンドほか『コロナ後の世界』文藝春秋(304)

世界が新型コロナウイルスによってパンデミックに陥った最中に書かれた、世界を代表する地理学者、AI研究者、経営学者、心理学者、起業家、国際貿易経済学者からのインタビュー集です。わかりやすい言葉で書かれており、どのような視点でパンデミックに向き合えばよいのかを考えるきっかけになりそうです。

### ○ユヴァル・ノア・ハラリほか『新しい世界：世界の賢人16人が語る未来』講談社(304)

世界最高の知性と洞察力を兼ね備えた21世紀の賢人16名との対談集です。それぞれの専門分野の権威への質問は、「総合的な探求の時間」などの考え方やフィールドワークの際の対応方法などを構築するための参考になりそうです。

### ○荻谷 剛彦『コロナ後の教育へーオックスフォードからの提唱』中央公論新社(377)

英国オックスフォード大学教授の著者が、日本の教育の問題点や、これからの社会を生きるための教育について、またこのコロナ禍にもたらされた新たな教育の役割などについて語った本です。

### ○ロベール・ボワイエ『パンデミックは資本主義をどう変えるか』藤原書店(332)

パンデミックに対する各国の政策をまずは理解したうえで、経済学的な視点から現状を分析した本です。経済学が社会の中でどのような役に立っているのかがわかります。将来経済学部への進学を考える生徒にはぜひ手に取ってもらいたい一冊です。

### ○近藤 誠『こわいほどよくわかる 新型コロナとワクチンのひみつ』ビジネス社(493)

解明が進んでいる新型コロナウイルスについて、また治療やワクチンについての知識が身に付きます。

### ○井川 直子『シェフたちのコロナ禍』文藝春秋(673)

東京都内で飲食店を営む34人のシェフたちに、緊急事態宣言下の2020年4月と、少し落ち着きの見えた10月に、それぞれの状況やそのときの感情などを取材し、生の声を拾い集めた本です。どのシェフからも「おいしい料理で元気で楽しい気持ちになってもらいたい」という思いが伝わってきて、外食は「不要不急」ではないことを改めて思いました。

## 小説の中の「新型コロナウイルス」

### ○ 夏川草介『臨床の砦』小学館 (913)

『神様のカルテ』や『本を守ろうとする猫の話』など、あたたかい気持ちになる本を多く書いてきた著者が現役医師として実際にコロナ治療の最前線に立ちながら書き進めたというこの本には、逼迫した医療現場の空気が真に迫る筆致でつづられています。読み終わった瞬間、すべての医療従事者にむけて深く感謝をしたくなりました。

### ○ 『Day to Day』講談社 (914)

昨年春の自粛期間は、正体のわからないウイルスにただただおびえる日々でした。そんなとき講談社のウェブサイトに見つけた「読書を愛するすべての方に、日々、物語を楽しんでいただけますように」という、100人の作家がつづったちいさな物語。不安でいっぱいだったこの頃の私は「このコロナ禍を忘れずに前に進めるように」と100日間にわたりつづられた物語にとっても勇気づけられました。その物語が一冊の本になりました。

### ○ 乗代 雄介『旅する練習』(913)

コロナで小学校の卒業式など行事が何もなくなってしまった亜美と、小説家の叔父が、千葉県のアノ子から茨城県の鹿島まで、サッカーの練習をしながら、そして小説を書きながら歩いて向かうロード・ノベル。最後の1ページまで読み進めたら、深い感動が押し寄せてきます。

### ○ 今日 マチ子『Distance わたしの#stayhome 日記』(726)

こちらは小説ではなくイラスト集のような本で、2020年4月からの1年間の日記のようにつづられています。最初に緊急事態宣言が発令されてからの人々の変化の様子が、英文も併記されている小さなコメントとともに、静かな筆致で描かれています。

## 📖 The Japan Times Alpha 📖

週刊「The Japan Times Alpha」は、一週間の重要なニュース、世界中のトレンドなどをぎゅっと詰めた英字新聞です。政治、ビジネス、環境、科学、スポーツ、芸能など国内外の様々なジャンルのニュースが程よいボリュームで掲載されています。また、英検対策やTOEIC対策などにも使え、文法、ボキャブラリー、ライティング、スピーキングなど英語の様々なスキルをアップさせるための学習記事も多く掲載されています。国際人としての素養を高めるのに最適な「The Japan Times Alpha」の最新版は神奈川新聞の横に、バックナンバーは学習コーナーの近くの『大漢和辞典』の上にあります。たくさんの時事英語を読み込んで、リアルな英語の習得を目指しませんか。

## 📖 今月のおすすめ本 📖

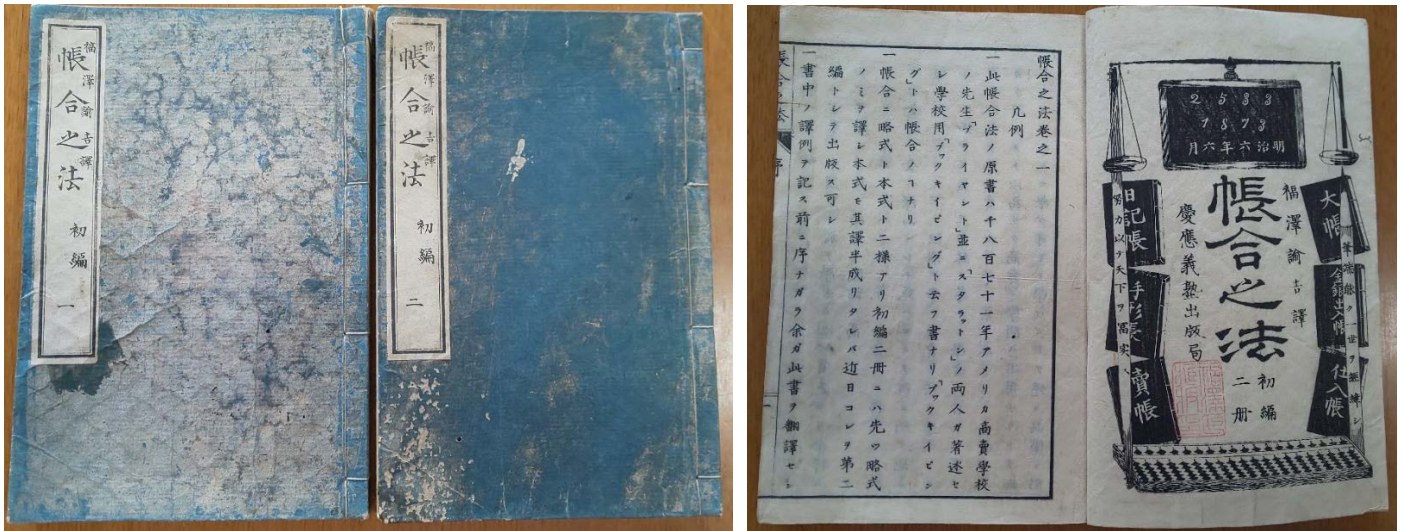
### ○ いしわたり淳治『言葉にできない想いは本当にあるのか』(914)

Supefly「愛をこめて花束を」などを作った作詞家 いしわたり淳治によるエッセイ集です。テレビや音楽、雑誌など主にマスコミ系からネタを拾い、そうそう、こんなこと思っていた！とか、へーそんなことちっとも気が付かなかった！というような、思わず膝を打つ言葉で溢れている本です。たとえば、指原莉乃が結婚願望を聞かれて「日によります」と答えていたことを「なんて素晴らしい返答だろう」とそのセンスのよさを感心していたり、また「激レアさん」に出ていたダジャレまみれの一般人に対するオードリー若林の「ごきげんですね〜」というコメントに、「相手を傷つけずにすべてを丸く収める完璧な返し」だと絶賛していたり。気持ちを言葉にあらわすということの可能性を最大限に示しており、ふだん言葉にできなくてもやもやしていたようなちょっとした感情を、絶妙な言葉にのせて表してくれている本です。



# Y校アーカイブ vol. 2 「帳合之法」

『帳合之法』は、福沢諭吉が日本で初めて西洋の簿記を翻訳し、紹介した本です。日本で長く使われていた「大福帳」に代わるものとして、明治6年6月に作られました。商売に役立つ実学の学問書となるよう、西洋式の金銭の授受取引や、会計の法を授けています。慶應義塾に学んだ初代校長の美澤先生や当時の先生方が、この本を使ってかつてのY校生に簿記の原型を教えていたのでしょうか。



本校にある『帳合之法』は「初編一」と「初編二」の二冊です。和綴じの本をめくると、大きく書かれた『帳合之法』の両脇に「福沢諭吉譚 慶應義塾出版局」とあり、その左右には「筆端能ク一世を經緯シ 努力以テ天下ヲ富実ス」と記されています。また上には天秤ばかり、下のほうにはそろばんが描かれています。このそろばん、みなさんが使っているものとはちょっと違っているところがあるのがわかりますか？どこが違うのかというと……。



そろばんの下の珠が5段になっています。